

教員の自己点検・評価シート(2023年度春学期)の分析

2023年11月13日
教学マネジメント会議

教養教職機構

1. 全体的な傾向

- ・各教員が授業科目レベルにおける自己点検と明らかになった自身の課題について、その改善に取り組んでいることが確認できる。
- ・全体的に、多くの科目において授業における効果的な ICT 活用を模索し、学生の理解や取組において有用性を実感する記述が多くみられる。
- ・各科目において、協同的な学びやアクティブラーニング等を取り入れ、学生が実感をもって学べるよう授業の工夫・改善に取り組んでいる記述が多くみられる。

2. 特筆すべき事例等

- ・全ての科目において、学生の学修に対する動機づけを高める工夫がみられる。(身近な事例や学生が実感を伴うテーマの設定、写真や動画等の活用、PP の活用や ICT を活用した学びの提供、ミニツツペーパーの活用等)
- ・語学領域における「学力差」に対する様々な手立ての工夫や個に応じた丁寧な指導の提供がなされている。(学生の学びにくさに対して、課題の提出方法や板書等の工夫、課題提示の方法等、教員の試行錯誤や工夫が確認できる。)

3. 改善事項の発掘

- ・アカデミック・ライティングにおいては、一つの科目で完結することではなく、4年間を通して様々な科目で横断的に身につけていくものであるとする指摘がある。
- ・語学学修において、能力差を指摘する記述がみられる。定着度や能力差に対する分析等を踏まえ、工夫・改善の余地があると考えられる。また、英語総合 (Ia・Ic) において、評価のばらつきが見られる。
- ・学生の授業に対する取組が受け身となっていることや意欲の温度差等の指摘がある。学生の学修に対する取組や意欲の喚起等が課題となっている。

4. アクションに向けての要検討事項等

- ・各科目における学生の学修意欲向上に向けた工夫・改善を検討すること。
- ・アカデミック・ライティング等の習得のための授業科目における連続性や横断的な取組に向けた連携・調整等の在り方について検討すること。
- ・英語総合 (Ia・Ic) において、英語実習 (Ib・Id) と同様、評価基準の統一について検討する必要があること。
- ・複数開講の評価についても評価基準の統一について確認する必要があること。

経済学部

1. 全体的な傾向

それぞれの科目で、各教員が改善に取り組んでいることが確認できた。特に、今年度から新たに科目を担当することになった教員をはじめ、科目担当となって年次の浅い教員が、試行錯誤を行いながら改善を行っていることが確認できた。

受講数が多い大人数科目も含め、ミニッツペーパー・質問時間の確保などを中心に、学生との双方向性を確保しようとする取組が多くみられた。今回新設したアクティブラーニングアンケートからも、多くの科目がアクティブラーニングの要素を含む取組を行っていることが確認できた。

クラスルーム等のデジタルツールの活用について、前年度より引き続き資料配布・理解度確認テストなどに活用している科目が多かった。一方、あえて紙ベースでの資料配布・ミニッツペーパー等に戻した科目もあり、それぞれの科目の進め方に応じて適切なツールの使い分けを行おうとしていた。

2. 特筆すべき事例等

時事の話題や最新の研究動向の紹介、映像資料等の活用などを通じて、学生の関心を喚起しようとする工夫に努めている科目が多くみられた。

知識の伝達より、練習問題などの課題の取組時間を講義内で確保することで、理解度を高めようとしている科目も多かった。

3. 改善事項の発掘

学生の学修意欲に関する記述が散見された。出席率の低い学生が少なくないこと、各種の課題を工夫しても最小限の範囲でしか取り組もうとしない学生が多いとの指摘が複数見られた。学生の学修意欲を喚起する取組が課題となっている。

4. アクションに向けての要検討事項等

2・3年次配当科目について、初年次配当科目であるミクロ経済学・マクロ経済学の知識の不足を指摘する声もあった。数量的分析を扱わない科目も含め、科目間の連携をはかっていくことが課題である。

数学や計算の理解度・能力が低下しているとの指摘があった。数学的内容を扱う科目について、導入科目(I・IIに分かれているIの科目)時点で理解度に課題を残す学生が多く、上級の科目(IIの科目)との差別化が困難であるとの指摘もあった。リメディアルなど数学の理解度を高めるか、あるいは職業人育成を目的とする学部教育の中で伝える内容を見直すべきか、現実に即して検討することが、今後の課題である。

国際交流センター

受講者の語学力におけるレベル差や、そもそもの受講目的の多様性にどう対応するか苦慮しているという意見が多く見られた。一方でその対応として、それぞれのレベルに合わせた課題の設定や、全体と個別で取り組む時間を分けるといった工夫を実施されている。